

会議要旨

【開催概要】

| | |
|-----------------|---|
| 会議名称 | 第1回富田林市立幼稚園・保育所あり方検討委員会 |
| 開催日時 | 平成28年6月28日（火）19：00～21：00 |
| 開催場所 | 富田林市役所3F庁議室 |
| 出席委員 (名簿順表記) | ・井上委員（会長）・野村委員（副会長）・竹田委員 ・大道委員・林委員・大西委員・西尾委員・河東委員 ・奥田委員・北谷委員（計10名） |
| 欠席委員 | なし |
| 事務局 | 子育て福祉部：青木部長、寺元次長 こども未来室：辻野課長、佐藤副主任 教育委員会教育総務部教育指導室：西川主幹 |
| 会議次第 | 1. 開会 2. 教育長あいさつ 3. 委員委嘱 4. 委員・事務局自己紹介 5. 富田林市立幼稚園・保育所あり方検討委員会設置要綱について 6. 会長・副会長選出 7. 議事 (1)事務局説明 ①会議の成立要件、会議の公開および会議記録の作成について ②市立幼稚園・保育所の現状と課題について (2)次回会議の日程について 8. 閉会 |
| 公開／非公開 | 公開 |
| 傍聴者 | 6人 |
| その他 | なし |

議事要旨

◇会議の冒頭で下記事項を決定する。

- ・会長に井上委員、副会長に野村委員を委員の互選により選出する。
- ・この会議は公開とする。
- ・傍聴の人数は6人とする。
- ・会議内容は『要旨記録』とする。
- ・会議の進捗状況は、市のウェブサイトにて積極的に公開する。

○議長

事務局から富田林市立幼稚園・保育所あり方検討委員会のスケジュールなどについて説明をお願いする。

●事務局

資料1の設置要綱にもあるが、市立幼稚園と保育所に関して、今後のあり方について検討し、その結果を市長に提言するまでが本委員会へお願いする部分である。

本日、第1回の会議については、市立幼稚園と保育所の現状を確認し、疑問点や意見を頂戴したい。第2回以降の会議については、意見を基に今後の配置や役割を含めた、あり方について検討し、提言の形を作っていたいただきたい。会議の回数としては、5回程度で平成28年中にご提言をいただきたい。

○議長

それでは、資料5について事務局から説明をお願いする。

●事務局

・・・資料5のとおり説明・・・

○議長

それでは、資料5について、発言をいただきたい。

○委員

資料5の最終ページに、認定こども園の運営形態が書かれているが、認定こども園にする方向で話を進めるということか。

●事務局

認定こども園ありきで会議を進めるということではない。

○委員

既に方向性が決まっている中で、形だけ参加するような会議なのか。

○議長

会議の位置づけの説明を再度求める。

●事務局

答えありきで進めるものではない。資料5のとおり、施設的なストックとしては、幼稚園部分に余裕があり、ニーズが保育所へ傾いている。保育所は、公立私立とも飽和状態の中で、今後、分母となる子どもの数が長期的に見て、減っていくことが明らかで、子どもたちに対し、より質の高い教育・保育を提供するためにはどうすればよいかを考える会議である。

○議長

結論ありきでなく、委員の意見をできるだけ反映する形で、市立幼稚園・保育所のあり方が決まっていこうと思うので、忌憚のない意見を頂戴したい。

○委員

私立幼稚園は3歳から入園できるが、なぜ市立幼稚園は3年保育を実施しないのか疑問に思う。市立幼稚園に入園させたいが「4歳からしか入園できない。」との理由で私立幼稚園を選ぶ保護者がたくさんいる。市立幼稚園も3年保育を実施すると園児も集まると思われるが、先生方はどのように思うか。

○議長

「なぜ市立幼稚園も3年保育をしないのか。」との意見についてどうか。

○委員

市立幼稚園の教諭は皆「3歳は是非とも受け入れたい。」と思っている。また、支援の必要な子もかなり増えている中、すべての子どもに手厚い教育を提供することが公立の役割と思う。3歳から支援が必要な子どもたちを受け入れたいという強い思いがあり、困っている保護者も多く、その辺りも検討していただきたい。

○議長

公立の教諭の立場からは、「公の担うべき役割として支援の必要な子の保育をどう手厚くしていくのか、保護者の立場からは、3年保育を検討・課題にあげてはどうか。」という意見があるが、この件に関し他に意見はあるか。

○委員

制度上、公立幼稚園は3年保育を実施できないのか。2年と定められているのか。

○議長

制度上は問題ない。富田林市の運用は分からないが、私立幼稚園の中には3歳の誕生日から途中入園できる幼稚園もある。

○委員

市立幼稚園は、小学校と隣接し、地域とも近く、スムーズに幼稚園から小学校に入学でき、安心である。富田林市の子育て支援に感謝しつつ市立幼稚園に入園した。少人数だが内容がすばらしく、理想的な教育を受けている。しかし、近隣の多くの子どもは、3年保育と延長保育を望み、私立幼稚園を選択した。保育所の待機児童問題と市立幼稚園のゆとりの教育は、分けて考えるべきと感じる。

○議長

「各家庭や子どもの状況に応じた施設整備が必要である。」という意見であった。

3年保育の話が多く出たが、他に意見はないか。

実際、私立幼稚園は市立に比べ、広い範囲から通園しているが、地域性を大事にする部分でどのような工夫をしているのか。

○委員

大阪府の幼稚園における3年保育と延長保育は、私立幼稚園が率先して築いてきたという自負がある。私立幼稚園の良さは、時代の流れ、保護者の希望、子どもたちにとって何が必要かを機動的に対応できることである。多くの私立幼稚園は、11時間の開園を可能にし、利用については、自由に選択できる。

地域性については、広域における繋がりがあり、それぞれの幼稚園が教育内容を開示し、保護者が教育理念に合った園を選択する。地域の価値を高めるための選択肢として、私立幼稚園の価値があると考えます。

○議長

地域密着型と広域の両方に良さがあるというお話だが、11時間開園となると、保育所の開所時間と同様となる。保育所として幼稚園の11時間開園とは異なる点を聞かせてほしい。

○委員

幼稚園と保育所は、よく比較される。保育所は、保育が必要な子どもを預かっており、7時から19時までの12時間の保育が必要となる子どもが多くいる。保護者に、子どもたちが安心して園で生活している、というところを示せるよう精一杯家庭的な保育を行っている。

○議長

児童福祉施設としての福祉的側面を持った施設であり、そのニーズに対応する施設であることを説明いただいた。市立保育所の特色など聞かせてほしい。

○委員

市立保育所では、子どもの心身の発達を促し、安心して楽しく過ごせるよう努力している。自園調理給食を生かした食育にも力をいれている。

保育時間については、市立保育所も7時から19時まで保育し、子どもに不安感を与えないよう、保育士がローテーションを組み、受け入れ体制を整えて、保護者とコミュニケーションを取り、安心してもらえるよう心掛けている。

安全面では、全職員がAED等の研修を受講し、より細かく配慮している。

障がい児保育では、支援が必要な子どもが増える中、友だちと一緒に過ごし、互いに影響を受けて共に育ちあっている。

保護者対応では、懇談などを通じ、子どもにとっての最善の方法を一緒に考えている。

地域の子育て支援では、保育士による子育て家庭の全戸訪問を実施し、園庭開放や子育て講座等を通して育児不安の軽減や解消に取り組む等、子育て家庭への支援も行っている。

就学に向けた活動については、生活や体の発達だけでなく、心の成長にも十分に目を向け、毎日きめ細かな保育をしている。

○議長

保護者支援等、積極的に行っている話や食育にかかわる自園給食について紹介いただいた。

どの施設も「それぞれの特色を出しながら保護者のニーズにどう応えるのか、子どもの最善の利益をどう保障するのか。」というところで本当に努力をしているのがよく分かる。

各施設の取り組みを理解したうえで富田林市として、資料5に戻り、現状を踏まえ、今後どのように考えていけばいいのか意見や質問等をいただきたい。

○委員

資料5の5ページの図2について、「公立幼稚園、私立幼稚園、保育所」のグラフで、保育所が公民の合計になっているが、「幼稚園、保育所」で見ると、幼稚園を希望されている保護者の方が富田林市の中では多く見受けられる。幼稚園を希望される保護者のニーズがあることを踏まえて、市立幼稚園も同じ選択肢の中に入るような政策を考えられたらと思う。

資料5の18ページの認定こども園の運営形態について、「幼保連携型認定こども園」が一つ例に取り上げられているが、これ以外にも「幼稚園型」や「保育園型」や「地域裁量型」があるので、いろいろ考えていくうえで委員の皆さんに参考に知っていただけたらいいと思う。

○議長

資料5の5ページ図2のグラフの出し方について意見があったが、事務局から説明をお願いします。

●事務局

保育所については、施設の定員を超えて受け入れする中で、みどり保育園を民営化しており、その部分で数字が動くこともあり、合計での表示とした。

○議長

もう1点、資料5の18ページ「認定こども園の運営形態として、幼保連携型以外も紹介があってもよかったのではないか。」との意見だが、事務局から説明をお願いします。

●事務局

選択肢として、あらゆる可能性を含めて考えており、一番典型的な部分を例示させていただいた。事務局として、幼稚園・保育所のあり方の考え方に含め、待機児童対策をこの中で解決したい思いから、そのような表現になった。

○委員

資料5の18ページに認定こども園の運営形態とあるが、既存の市立幼稚園と保育所を統合するということか。または、別の施設を造るということか。それとも、既存施設の名前を変えて利用するということか。

●事務局

一般的なこども園について書いてある。例えば、幼稚園の部屋数に余裕があり、仮に認定こども園化する場合、余裕のある部屋で保育需要の方を受け入れる考えもあり、逆に保育所の場合は、2号3号の保育需要でいっぱいになっている部分に1号を希望する方も入所となるが、後者は待機児童対策的には逆行することになり、幼稚園をこども園化する、もしくは、全く新たな施設を造ることも選択肢の中にも含まれるものとする。

○委員

施設の老朽化や耐震への対応など、今後、子どもたちを守る上で重要な項目だと思うが、自治体が先走って施設整備を進め、市民とトラブルになるニュースを聞くことがある。待機児童対策も大切だが、首都圏と比べると富田林市は待機児童が少なく、子育て支援は、とてもすばらしいと思う。選択肢が多くあり、市立幼稚園の良さを守りつつ、人が戻ってくる努力をする等、総合的な見方が必要だと感じている。

○議長

「総合的な見方が必要。」ということで、基本的なものの見方を示されたと思う。富田林市は待機児童数が全国的にみるとそれほど多くはないが、待機になっている側にすれば、100人の中の1人も、6人の中の1人も、その1人の思いは同じであるところも考えなければいけない問題である。

○委員

他市で急激な認定こども園化が進んでいるが、認定こども園ありきではなく、公私立の幼稚園・保育所、それぞれの良さをこのまま生かすことができないかと思う。

富田林市が本当に子育てしやすい町になるにあたり、公私立幼稚園・保育所は充実していると思う。

保護者の選択肢は多い方がいいと思う中で、なぜ幼稚園と保育所を一緒にしなければいけないのか理解できない。市立幼稚園に空き部屋があるから使えばいいという考えはしないほしい。

今後、市立保育所の民営化にあたり4園は残してほしい。市立幼稚園も13園あればいいと思う。子どもの減少は理解するが、施設統合は避けてほしい。

○委員

施設老朽化の資料より、災害時に国や自治体の対応問題も含めて考える時代である。自治体の人口が減少する中、施設が頑丈であっても1施設に集中するのは良くないと思う。

富田林市は人口が減少しているが、大きな建物が少なく、田畑があり、将来を担う子どもたちにとっては良い環境だと思う。

○委員

私たちが保護者の選択の可能性が広がってほしいと思う。

それぞれの公私立の幼稚園・保育所の良さがある。市立幼稚園も3年保育・預かり保育等の選択肢を広げることが保護者のニーズに対応すると考える。

兵庫子ども・子育て未来プランに記載されているような一時預かり事業のニーズ調査が今回の資料にはないので、調べるのができたらと思う。

保育所の待機児童問題について、保育の必要性についての度合いも考える必要がある。

認定こども園については、近隣市で動きが活発化する中、今はまだデメリットの声しか聞こえてこない。認定こども園を早急に進めるのではなく、将来的に是非が論じられてから進める方法もあるのではないか。

○議長

一時預かりニーズ調査の資料を次回までにお願ひする。

●事務局

了解した。

○議長

皆さんから色々な思いや活発な意見を出していただいた。

「総合的に判断し、選択の幅をしっかりと持たせることが大事であり、危機対応を判断材料に入れながら考えていく必要がある。」との意見であった。

また、認定こども園については、「施設の空き状態のみで判断して進めないでほしい。」との意見であった。

認定こども園に移行した園の先生から、大変だということも伺っているが、例えば、交野市では、1970年代から幼稚園と保育所が一体的に運営されてきた。施設としては、幼稚園、保育所であるが、まとめて「幼児園」という名前がついている。そちらの先生に伺うと、非常に長い歴史があり、幼稚園と保育所が一体化されていることの良さも実際あると聞くので、認定こども園の良さと課題を確認できるような資料の提供を求める。

他に意見はあるか。

・・・なし・・・

第1回目の会議は、様々な意見を出していただいた。次回以降は、今回の意見を参考に各委員にて市立幼稚園と保育所の配置や役割について、具体的に考えていただきたい。

各委員の具体的なあり方の考えを収集したいが、第2回目の会議に向けてスケジュールを含め、事務局から説明をお願いします。

●事務局

資料5の13ページ以降を参考に市域を4つのブロックに分けて考えていただきたい。

各ブロックの教育・保育施設の表に市立幼稚園と保育所が記載しているので、この表を基に富田林市全体を見据えていただき、今後の配置を考えていただきたい。

特に様式には拘らず皆さんのご意見を7月22日（金）までをお願いします。第2回目の会議は、9月上旬を予定しているので、各委員のご意見を取りまとめ、事務局資料と併せて8月中頃に郵送したい。第2回目の会議で、皆さんのご意見と併せて検討をお願いします。

○議長

今回の会議では、8月中頃に届く資料を基に、更に考えを深めて参集いただきたい。

本日の案件は以上だが他に意見はあるか。

○委員

配置とは、何の配置を考えればいいのか。

●事務局

富田林市立幼稚園と保育所について、今後の配置を考えていただきたい。

○委員

市立幼稚園はニーズがないという前提で考えていたのか。

●事務局

そうではないが、数年前までは年間約1,000人だった出生数が約730人まで減っており、今後は年間600人を下回る可能性があり、非常に危機的な状況である。

富田林市全体を広い視野で見据えていただき、意見をいただきたい。

○議長

施設の配置だけでなく、3年保育等の役割も含めて意見をいただく、ということで良いか。

●事務局

はい。

○議長

本日の会議は、これで終了とするが、事務局から何か報告はあるか。

●事務局

本日審議された会議の議事録については、事務局で作成し、会長にご確認いただき、文言等の確認・修正をしたものを皆さんに送付する予定である。また、市のウェブサイト公開する予定である。

○議長

委員の皆さん、よろしいか。

・・・異議なし・・・

次回の会議日程について、事務局お願いする。

●事務局

次回の会議日程は、9月上旬を考えている。詳細な日程は後日通知する。

8. 閉会